

第5回 ユニバーサルなスポーツ施設検討会 次 第

日時：令和7年3月26日(水) 14:00～16:00

場所：ラッセホール B1「パンジー」

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 議 事
 - (1) 令和7年度の取組について
 - (2) 「ひょうご障害者総合トレーニングセンター(仮称)」整備基本構想等について
 - (3) 令和7年度事業計画書 ((公財)兵庫県障害者スポーツ協会)
- 5 その他
- 6 閉会

(配付資料一覧)

- | | |
|-------|--------------------------------------|
| 資料1 | 令和7年度の取組 (第4回検討会資料、研修会関係資料及び議会からの意見) |
| 資料2 | ひょうご障害者総合トレーニングセンター(仮称)整備基本構想の概要 |
| 資料3 | 令和7年度事業計画書 ((公財)兵庫県障害者スポーツ協会) |
| 参考資料1 | ユニバーサルなスポーツ施設検討会設置要綱、検討会委員名簿 |
| 参考資料2 | 第1回～第4回検討会での主なやりとり |

第5回 ユニバーサルなスポーツ施設検討会

出席者名簿

日時：令和7年3月26日(水) 14:00～16:00

場所：ラッセホール B1 パンジー

<委員>

区分	氏名	役職等	備考
有識者	青山 将己	流通科学大学人間社会学部講師	
	柳 尚吾	関西学院大学建築学部准教授	
障害者スポーツ振興団体	増田 和茂	県障害者スポーツ協会理事長	
障害者団体	木村 佳史	県身体障害者福祉協会理事長	代理 東鬼事務局長
	柴崎 博彦	県知的障害者施設協会スポーツ委員長	
	新銀 輝子	県精神福祉家族会連合会会長	
パラアスリート	大矢 勇氣	車いす陸上選手	欠席
	笠本 明里	パラ水泳選手	
	久保 秀男	車いすバスケットボール選手	
施設関係者	奥山 隆彦	株式会社ウェルネスサプライ しあわせの村温泉健康センター総支配人	

※区分ごとの五十音順。敬称略

<事務局>

役職	氏名
福祉部次長	のだ せいいち 野田 誠一
同 ユニバーサル推進課長	あいうら てるゆき 相浦 輝之
同 主幹(事業担当)	にしだ いきむ 西田 勇
同 主幹(パラスポーツ推進・拠点整備担当)	まつだ じゅんご 松田 淳吾
同 主任	やまねま なみ 山根麻奈美

拠点施設の整理について (ハード対応)

区分	県の支援内容	支援方針
中核拠点施設(全県)	1:ソフト面の充実 2:整備	1:ソフト面の充実 兵庫県立障害者スポーツ交流館(神戸市西区)の機能強化(大会実施(全国・全県レベルのスポーツ大会)人材育成(審判・指導者講習会,アスリートとの練習会・記録会・競技会)普及活動(パラスポーツ教室)の充実)(全県レベルの拠点) 2:全県的な新施設の整備 上記交流館のアーリー稼働率(99.5%:R5)を踏まえ、世界パラ陸上等のレガシー継承、中核拠点機能の強化のために新たな施設整備も視野に入れた検討の実施
案1 地域ごとの圏域拠点	拠点への位置づけ*	<ul style="list-style-type: none"> 各圏域に1箇所、中核拠点を補完し、体育館・グラウンド・プールいずれかを有するアスリート育成等の中心拠点となる施設をユニバーサルな圏域拠点に位置づける
案2 競技ごとの拠点		<ul style="list-style-type: none"> 各競技毎の拠点となる施設を、アスリートとの練習会、記録会、競技会等の実施について調整したうえでユニバーサルな拠点に位置づける (例：県立円山川公苑(豊岡市)のカヌー競技、県立尼崎スポーツの森(尼崎市)のプール競技、県立三木総合防災公園陸上競技場の陸上競技(三木市)など)
市町拠点	UD化補助	<ul style="list-style-type: none"> 障害の有無を問わず近隣住民が気軽にスポーツに取り組める、パラスポーツの普及を重視した市町拠点へのUD化支援 1:駐車場、スロープ、トイレ、エレベーター、更衣室、館内の案内表示の整備 2:県立障害者スポーツ交流館等の整備モデル事例集の提示 (R7予算要求) 3:1の箇所を中心にUD化への補助を検討

* (R7予算要求)の表記以外の取組は、引き続きR7ユニバーサルなスポーツ施設検討会で検討

* 位置づけ対象の拠点施設には、実施競技、施設特性等について県や県障害者スポーツ協会が積極的にHP等でPR、のじぎくスポーツ大会の実施等で支援

ソフト面の支援方策について

○施設職員向け障害者対応研修の実施（R7予算要求）

- ・ 障害種別や行動特性、施設利用時の安全確保等を学ぶ研修会の実施
- ・ 研修会では座学のほか、障害者スポーツ交流館等でのOJTを取り入れる
- ・ 研修会の中で、県障害者スポーツ協会からスポーツ施設職員とパラアスリートが使いやすい施設となるよう協議する場の設定、障害者優先利用日や障害者の優先利用時間帯の設定、減免*等の対応実施への働きかけ、協力を依頼

○減免対応の検討

- ・ 減免対応には、市町・民間施設の十分な理解を求める必要があるため、拡充に向けて例えば10月の体育の日を中心に1週間程度の無料開放週間を実施することや、本格実施に向けた各施設の最適な減免割合等について、R7のユニバーサルなスポーツ施設検討会で検討

今後のスケジュール

令和6年10月：令和7年度予算要求（要求内容まとめ）

・ユニバーサルなスポーツ施設検討会の実施

（検討内容:中核拠点施設に必要な施設機能、拠点への位置づけ、モデル事例を踏まえた市町拠点へのUD化補助制度、減免対応の方向性 等）

・県立障害者スポーツ交流館等整備モデル事例の提示

・施設職員向け障害者対応研修の実施

令和7年3月：第5回検討会

- ・次年度の施策説明

Ⅲ ユニバーサル社会づくりと障害者のくらし支援

新

県内スポーツ施設のユニバーサル対応研修会の実施

R7当初：430 千円

- 令和6年度に実施したユニバーサルなスポーツ施設検討会（R7も継続）での議論を踏まえ、県内スポーツ施設における職員体制の充実、施設職員が現場で活かせる知識やスキルの獲得を目的に、**施設職員向け障害者対応研修を実施**

○研修内容

（座学）

- ・各障害の理解と障害特有の行動特性を踏まえたコミュニケーション方法
- ・障害特性を踏まえた施設利用時の安全確保、事故発生時の対応方法

（実技）

- ・施設を実際に利用しながら、介助・誘導・安全確保、疑似体験等の実習

○対象者

県内スポーツ施設（県・市町・民間）の運営に携わる職員



座学研修



実技研修：身体障害者の利用時の対応

ユニバーサル対応研修会想定スケジュール(参考案)

(座学研修想定スケジュール：1日)

時間	研修内容
9:00～10:00	①各障害の理解【身体（肢体・内部）】と障害特有の行動特性を踏まえたコミュニケーション方法について
10:05～11:05	②各障害の理解【身体（視覚・聴覚）】と障害特有の行動特性を踏まえたコミュニケーション方法について
11:10～12:10	③各障害の理解【知的】と障害特有の行動特性を踏まえたコミュニケーション方法について
13:00～14:00	④各障害の理解【精神】と障害特有の行動特性を踏まえたコミュニケーション方法について
14:05～15:05	⑤障害特性を踏まえた施設利用時の安全確保、事故発生時の対応方法について
15:10～16:10	⑥グループディスカッション (テーマ例：スポーツ施設における障害のある人の受入について)

(実技研修想定スケジュール)

【半日施設（プール（午前）、グラウンド（午後））*午後も同スケジュール(13～16まで同配分)】

時間	研修内容
9:00～9:30	①各施設の見学
9:30～10:30	②実際に施設を利用しながら、介助・誘導・安全確保を体験
10:30～11:30	③実際に各障害等を疑似体験し施設を利用
11:30～12:00	④振り返り

【一日施設（アリーナ）】

時間	研修内容
9:00～10:00	①施設見学
10:00～12:00	②実際に施設を利用しながら、介助・誘導・安全確保を体験
13:00～15:00	③実際に各障害等を疑似体験し施設を利用
15:00～16:00	④振り返り

来年度の検討会スケジュール（案）

○今年度の議論を踏まえ、上半期を中心に3回程度検討会の実施を予定

	主な内容等
6月	<ul style="list-style-type: none"> ①全県中核拠点施設のあり方（新施設整備の必要性） ②圏域拠点施設のあり方（具体の位置づけについて） ③市町拠点施設のあり方（具体の支援方策について）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ①全県中核拠点施設のあり方（新施設整備の必要性等） ②圏域拠点施設のあり方（具体の位置づけについて） ③市町拠点施設のあり方（具体の支援方策について）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ●取りまとめ ●R8年度予算要求

※整備モデル事例の効果的な周知方法や施設職員向け研修会の実施について、適宜検討会で意見を求める

※審議の充実を図るため、議題に応じ適宜、関係者の検討会へのアドバイザー参加を検討

※今後のひょうご障害者総合トレーニングセンター(仮称)整備事業の議論の進展状況によっては、検討会内での部会設置についても検討

令和 7 年度事業計画書

目 次

1	障害者スポーツ大会の開催	1
2	全国障害者スポーツ大会等への選手派遣	1
3	障害者スポーツ団体の育成・拠点整備	2
4	障害者スポーツ人材の育成	2
5	障害者スポーツの普及啓発	3
6	(公財)日本パラスポーツ協会受託事業	4
7	関係機関との連携	5
8	パラスポーツにかかるデータベースの構築と活用	5

公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会

令和7年度事業計画書

1 障害者スポーツ大会の開催

兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会の実施等により、障害者スポーツの振興を図るとともに、障害者の社会参加と県民の障害者への理解を促進する。

(1) 第19回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会の開催

<令和7年度開催計画>

開催日	競技	対象	会場
3月22日(土)	ソフトボール サッカー	知	県立三木総合防災公園
4月19日(土)	バスケットボール バレーボール	知	県立障害者スポーツ交流館
4月20日(日)	バレーボール	精	県立ふれあいスポーツ交流館
5月9日(金)	卓球	精	県立障害者スポーツ交流館
5月10日(土)	卓球	身・知	県立障害者スポーツ交流館
5月11日(日)	ポッチャ	身	県立障害者スポーツ交流館
5月17日(土)	フライングディスク	身・知・精	県立明石公園陸上競技場
5月17日(土)	ボウリング	知	神戸六甲ボウル
5月18日(日)	水泳	身・知	三木山総合公園屋内プール
5月24日(土)	陸上競技	身・知	加古川運動公園陸上競技場
5月25日(日)	サウンドテーブルテニス	視	県立障害者スポーツ交流館

身…身体障害者／知…知的障害者／精…精神障害者／視…視覚障害者

2 全国障害者スポーツ大会等への選手派遣

(1) 第24回全国障害者スポーツ大会近畿地区予選会への選手派遣

全国障害者スポーツ大会に派遣する近畿ブロック代表チーム(団体競技)を決定する近畿地区予選会に兵庫県チームを派遣する。

※令和7年度は、滋賀県で全国大会が開催されるため、予選会は全て滋賀県が開催

(2) 全国障害者スポーツ大会への選手派遣・育成

滋賀県で開催される第24回全国障害者スポーツ大会「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ2025」に兵庫県選手団を派遣するとともに、派遣選手の競技力向上のため合同練習会を開催する。

大会期間 令和7年10月25日(土)～10月27日(月) 3日間

開催場所 彦根市 ほか

派遣人数 約233人(予定) 選手 約162人／コーチ・介護人 約71人

(3) 全国車いす駅伝競走大会への選手派遣

京都市で開催される全国車いす駅伝競走大会に兵庫県チームを派遣する。

開催日 令和8年3月(見込) 会場 京都市内

3 障害者スポーツ団体の育成・拠点整備

(1) 競技別県大会開催支援

競技団体の競技力向上や競技人口の拡大のため、団体が主催する競技大会等の開催に要する費用を助成する。

対象団体 36 団体 (令和7年3月現在)

助成額 上限8万円

(2) 競技別全国大会等派遣支援

競技団体の競技力向上を図るため、団体が行う全国大会等(国際大会含む)への選手派遣に要する費用を助成する。

対象団体 36 団体 (令和7年3月現在)

助成額 上限6万円

(3) 競技別団体設立支援

全県的な競技人口の拡大を図るため、その競技において県を代表する連盟・協会等の新たな設立に要する費用を助成する。

助成額 上限5万円

(4) 兵庫県障害者スポーツフェスティバル開催支援

障害者スポーツのすそ野の拡大を図り、障害の有無に関係なく、誰もが障害者スポーツを楽しむことができる大会やイベント等の開催に要する費用を助成する。

助成対象 10 大会 (ひょうご障害者スポーツ指導者協議会各支部主催)

助成額 上限3万円

(5) 地域における障害者スポーツ推進拠点の整備

県立特別支援学校、企業、大学、団体等の体育施設を地域における障害者スポーツの拠点として活用するため、支援員(近隣の障害者スポーツ指導員等)による管理運営、活動指導等の支援を行う。

4 障害者スポーツ人材の育成

(1) 障害者アスリートマルチサポート事業の実施

応援協定締結団体等と連携した専門的な技術指導(栄養学講座、用具メンテナンス、リハビリの指導等)、記録会、一般スポーツ団体との交流等の多面的な支援を行うことにより、障害者アスリートの総合的な競技力向上を図るとともに、一般競技者と双方向の交流によるパラスポーツへの参画者の増大を目指す。

また、次代を担うパラアスリートの発掘育成を目的に、全国大会等をめざす意欲あるジュニア(小中学生等)を対象として、ジュニア指導に精通した指導者による技術指導など、ジュニアに特化した多面的な支援を実施する。さらに、保護者や学校へ事業の情報提供など普及啓発を行い、若手アスリートの発掘につなげる。

(2) 兵庫県障害者スポーツ指導者養成講習会の開催

地域における障害者スポーツ指導者養成のため、公益財団法人 日本パラスポーツ協会公認「初級パラスポーツ指導員」の養成講習会を開催する。

開催にあたっては、障害特性の理解・医療人材との連携の視点も取り入れるとともに、教員や学生など若手指導者となりうる人材の確保に努める。

受講資格 県内に居住又は勤務(在学)する 18 歳以上の者

日程： 令和 8 年 1 月

会場： 障害者スポーツ交流館(神戸市西区)等

(3) 審判員等養成講習会の開催

審判員や指導者が不足する競技の審判員等を養成するため、競技団体と合同で審判員等養成講習会を開催する。

(4) 施設職員向け障害者対応研修の開催【新規】

さらなる障害者スポーツの振興につなげるため、県内スポーツ施設の運営に携わる職員を対象に、障害特性に応じた対応等を内容とした研修会を開催する。

研修内容

座学(1日): 障害の理解と障害特性を踏まえたコミュニケーション方法
施設利用時の安全確保、事故発生時の対応方法

実技(2日): 介助、誘導、安全確保等の実習

5 障害者スポーツの普及啓発

(1) パラスポーツ王国 2025(仮称)の開催

障害のある人とない人がスポーツを通じて相互理解の促進を図るとともに、神戸 2024 世界パラ陸上のレガシー等を継承するため、神戸市と共同で開催する。

車いすマラソン及び障害の有無に関わらず参加できるユニバーサルリレー、パラスポーツ体験会等を実施することにより、新たな参加者層の開拓も図る。

開催日: 11 月 9 日(日)

場 所: しあわせの村(神戸市北区)

(2) 障害者スポーツ出前講座の実施

小中学校、企業、福祉団体等において、障害者スポーツの出前講座を実施し、障害者スポーツへの理解・参画を促す。

実施回数 30 箇所程度

(3) 第 3 回兵庫県ボッチャ大会の開催

スポーツを通じた共生社会の実現のため、障害や多様性への理解促進とパラスポーツの普及を目的に、年齢、性別、障害の有無に関係なく参加可能なボッチャ大会の決勝大会を開催する。

開催日 令和 8 年 2 月頃

場 所 調整中

参加チーム等 県内外の大会優勝チームを含む 20 チーム（予定）

（４）パラアスリートとの交流、パラスポーツ体験事業の実施

神戸 2024 世界パラ陸上競技選手権大会のレガシーを継承しつつ、障害者スポーツの更なる機運醸成を目的に、小中学生等（健常者と障害者との交流を想定）を対象とした、本県ゆかりのパラアスリートとの交流やパラスポーツ体験事業を実施する。

今後、応援協定締結団体とも定期的会合（後掲）を実施しアスリートの派遣等を依頼するとともに、体験会参加者を対象としたフォローアップ（県のじぎく大会への参加案内等）にも努める。

開催回数 年 3 回程度

（５）パラ e スポーツ体験会（仮称）の開催【新規】

障害のある人がパラ e スポーツ体験を通じて、「体を動かすこと」やパラスポーツへの興味・理解を深めることを目的に開催。体験会ではパラスポーツの魅力も発信し、のじぎく大会等への新たな参加者層の開拓も図る。

開催日：調整中

場 所：調整中

（６）スポーツ協会広報誌の発行

当協会が実施する大会等の情報を中心に障害者スポーツ関連の話題を掲載した広報誌を発行し、各都道府県・県内各市町・関係団体・障害者スポーツ指導員等に配布。（年 2 回発行）

（７）パラリンピック写真展・障害者スポーツ絵画展の開催

パラスポーツイベントに合わせ、施設等において写真展・絵画展を実施することにより、障害者スポーツへの理解を促す。

（８）兵庫県障害者スポーツ功労賞、特別優秀選手賞、優秀選手賞の贈呈

障害者スポーツの振興に功労のあった者又は団体、その他広く障害者の模範となった者又は団体を表彰してその功績を顕彰する。

（９）国際大会出場選手への激励金の贈呈

障害者スポーツの振興と県民に対する理解促進を図るため、国際大会に出場する選手の表敬訪問及び激励金の贈呈を実施する。

対象大会 パラリンピック（5 万円）、

デフリンピック、スペシャルオリンピックス世界大会、アジアパラ競技大会（3 万円）

その他 理事長が認める大会

6 （公財）日本パラスポーツ協会受託事業

「初級パラスポーツ指導員養成講習会」「地域における障がい者スポーツの振興事業」など、当協会の目的と合致する事業について積極的に受託し、実施する。

7 関係機関との連携

(1) 障害者スポーツ応援協定による取組【拡充】

大学や企業、団体等との間で「障害者スポーツ応援協定」を締結し、練習場所の提供やボランティア派遣等、様々な形での障害者スポーツへの参画・支援を推進する。

今後も、県とともに、応援協定締結団体との定期的な会合を設け、共同イベントの企画・開催等に向けた取り組みを行う。

協定締結団体 90 団体（大学等 20、企業 60、団体 10）

(2) 障害者スポーツネットひょうごとの連携

県内の障害者スポーツ関係団体・施設等を構成員とするネットワーク組織である「障害者スポーツネットひょうご」に参画し、協働事業の展開や、情報共有を行う。

(3) ひょうごパラスポーツ指導者協議会との連携

地域で活動する指導者で構成する「ひょうご障害者スポーツ指導者協議会」の一層の活性化を図り、県内障害者スポーツの振興に資するため、指導者協議会との密接な連携協力のもと、各種大会の開催、全国障害者スポーツ大会への選手派遣等を行う。

(4) 東京 2025 デフリンピック、愛知・名古屋 2026 アジアパラ競技大会、ワールドマスタースゲームズ 2027 関西 主催団体との連携【拡充】

今後、国内で開催が予定されている国際大会の開催に向け、各主催団体や関係団体との連携・協力のもと、機運醸成の取組を進める。

（東京デフ大会） 令和 7 年 11 月 15 日～26 日（12 日間）

（アジアパラ大会） 令和 8 年 10 月 18 日～10 月 24 日（7 日間）

（WMG 関西） 令和 9 年 5 月 14 日～5 月 30 日（17 日間）

(5) その他団体等

公認指導員資格取得認定校と連携した若手指導者の育成、福祉事業所への大会周知など、様々な団体との連携を、パラスポーツにかかるデータベース（後掲）も活用しながら推進する。

8 パラスポーツにかかるデータベースの構築と活用

施設・人材・活動の情報を一元的に収集し、情報発信・相互連携・参加促進等に活用する。

【情報収集項目】

- ・指導者協議会地域委員会の人材と活動
- ・地域スポーツ団体の所在と活動
- ・福祉事業所のパラスポーツ取組状況
- ・健常者のスポーツ大会情報 など

また、県の調査事業（スポーツ施設のユニバーサル対応状況）とも情報連携する。

(参考) 財政基盤の強化

(1) 賛助会員の募集

関係団体、協賛実績のある法人、企業、社会奉仕団体等に兵庫県障害者スポーツ協会だより送付の機会等を活用し、広く加入を呼びかける。

(2) 協賛企業の開拓

兵庫県のじぎくスポーツ大会等の協賛企業の新規開拓を進めるとともに、大会プログラムへの広告掲載を積極的に行い、広告収入の拡大を目指す。

(3) 障害者スポーツ支援自動販売機の設置

飲料販売企業の協力を得て、売上金の一部が当協会に寄附される障害者スポーツ支援自動販売機設置台数の増加を推進するため、学校・企業等に対して設置協力を依頼する。